

第79振武隊 編成より散華まで

【理事 瀬戸山 定(少飛14期)】

第79振武隊が編成されてから沖縄海域で散華するまで、その行動を記録や日誌から収集して、一覧表にまとめた。疑問・矛盾もあり不明の点もあるが、ご推察をお願いしたい。

(昭和20年3月27日~6月30日)

月/日	事象・行事	内 容
3/27	特別攻撃隊編成命令下達	第79振武隊編成、隊長山田少尉以下12名、特攻機は99式高等練習機、桶川発4月5日、知覧着4月〇日、整備員6名小月飛行場まで同乗、との命令、指示あり。3日、拝司少尉次期隊長要員として残留、上野伍長編入。*「〇日」→大命後、出陣式が繰り上がり(拝司総吉著『心乃饗宴』)、5日になったという。
28	出撃準備	午前、航空服一式支給 午後、飛行機受領
29	訓示、機材取扱	午前、山田隊長の訓示 午後、機材取扱法研修
30	離着陸訓練	午前、飛行機受領。終日離着陸訓練。16:30より川越へ、隊長以下12名和気藹々で会食。
31	艦船攻撃訓練	吹き流しをめがけて急降下、急上昇の反復訓練。陸軍大臣より鉢巻が贈られた。 田中少尉、群馬の実家に「面会頼む」と打電、兄茂氏と夜の桶川駅で面会、駅前の旅館に宿泊。*会報第7号(H19.11)に手記掲載。
4/1	訓練本格的段階に入る	翌朝、兄と別れ、横浜から宇都宮に飛び訓練に参加、途中9時ごろ桶川駅上空を旋回して兄に別れを告げた。 午後、航空士官学校へ飛行機受領に飛び。特攻機12機が揃った。
1~4	特攻機の塗装	日付ははっきりしないが、全機揃ったところで川越から塗装業者が来て、機体を戦闘色(灰褐色)に塗装し、尾翼に部隊標識を描いた。清水・山本少尉は部隊標識を背景に写真を撮った。
2	生地離着陸訓練 外泊許可	午前、立川飛行場に夜間装備(取付か、点検か)に行く。 壬生飛行場に生地(不整地)離着陸訓練に行く。16:00より1泊の外泊が許可された。 高橋少尉(東京)・田中少尉(群馬)・川島軍曹(栃木)・上野伍長(茨城)は郷里が近いので実家へ外泊したか。佐藤曹長は、館林に別れの挨拶に。
3	外泊・休暇	夕刻全員帰隊、夕食後、拝司少尉に贈る寄せ書きに墨蹟を残した。何故か、清水少尉・田中少尉の墨蹟が見当たらない。
4	身辺整理・荷物発送等	桶川最後の日、私物の整理や書き物などで多忙な1日であったと推測する。 池田少尉は「桶川に面会に来てくれ」と実家に打電、両親が夜行列車で桶川に駆けつけた。*会報第5号に掲載。
5	桶川出撃(注)	池田少尉は午前中に両親と面会でき、別れの写真も撮った。もう一家族が桶川に面会に来ていた(拝司少尉の配慮で駆けつけた山田隊長の兄正明氏かもしれない)。 午前中出陣式、訓示・誓詞・申告の後別れの盃で式を終り、操縦士、整備員搭乗、出発点に移動して待機。12:00発進、3機編隊ごとに離陸、上空で12機が一系乱れぬ編隊を組み、超低空で飛行場上空を通過、見送りに集まった多くの人々に全機翼を左右に振って別れを告げ、各務ヶ原飛行場を目指して飛び去った。 各務ヶ原飛行場までは直線で約260km、2時間足らずの飛行であるから、遅くとも14:00には到着するはずである。(到着時間を明記した資料なし)その夜は、隊外の指定された旅館で特攻隊員と整備員が同宿した。 *(注)見送った多田少尉は、「進発」と言っている。

月/日	事象・行事	内 容
4/5	各務ヶ原飛行場(かがみがはら) 山田隊長、母との別れができず	山田隊長は、各務ヶ原飛行場着陸後、諸手続きや作業を終え、夕食後の自由時間に母と面会する予定であったが、電報の読み間違いで、訣別の面会ができなかった。*会報「大空への鎮魂」第23号に詳細掲載。 人生の最期に母との別れができなかったとは、何という無情な出来事であろうか。隊長の胸中察するにあまりある。 親族で別れができたのは兄正明氏一人で、正明氏夫人が「今生の別れができなかった」と母が泣いていた」と語ったという。
6	小月飛行場へ 宿 泊	08:00 各務ヶ原飛行場離陸、小月飛行場を目指す。 08:18 ごろ、多賀町上空で清水少尉が実家付近まで降下、父や近所の人々と別れを交わした。 08:35 ごろ、京都市上空で山本少尉が実家付近まで降下、家族や近所の人々と別れをかわした。 1時間半足らずの飛行で瀬戸内海に出た編隊は、小月に変針して左に四国、右に本州中国地方を見て、瀬戸内海上空を飛行、11:00 無事小月飛行場に着陸した。遺書や手紙が書かれた。 夜、小月市内の吉田屋旅館で会食、宿泊。清水少尉はここで遺書を書き、田中少尉は父宛ての最期の手紙を書いた。*手紙は本会が所蔵。
7	知覧飛行場へ 待 機	03:30 起床、06:00 離陸、知覧を目指す。女子挺身隊員が操縦士に花束を贈った。整備員は列車で桶川へ向かう。知覧までは直線で約300km、2時間足らずの飛行で8時までには到着しているはずである。 到着後、直ちに戦闘態勢に移り、09:00 より出撃命令を待つが下令なく、その夜は三角兵舎宿泊。第107 振武隊と同泊。
8	特殊任務?	田中少尉、09:00 知覧発、小月へ向かう。「途中、澤田一等兵を同乗」とあり、熊本県の健軍か、福岡県の大刀洗にでも立ち寄ったのであろうか。その後第6 航空軍司令部に寄り、種々の用事を済ませ、小月に飛んで「操縦者保健寮」に投宿した。その後の消息無し。
9~ 15	空 白	この間、情報なく細部不明。待機するも出撃命令発令されず。15 日出撃命令下る。
16	12 機、 沖縄海域へ 出撃	払暁(はつぎょう)攻撃と想像されるので、99 高練に 250 kgの爆弾を積み約3 時間の距離、03:30 ごろに離陸したのではあるまいか。 この攻撃で、池田機は爆弾が落下して知覧に引き返し、高橋機は敵機の攻撃を受けて珊瑚礁の島に不時着した。この日の攻撃では、8 隊 41 名が散華している
22	池田機、沖縄 海域へ出撃	池田少尉は、修理を終えた 99 高練で他の特別攻撃隊とともに、国分基地から再出撃し散華した。妹たちは、22 日朝ラジオでその名前を聞いたという。
6/30	救 助 振武寮へ 待 機	珊瑚礁の島に不時着した高橋少尉は、負傷したが島民に救助された。船便を求めて逐次内地に向かい奄美大島からの便で九州に送られた。 直ちに列車で福岡にあった「振武寮」に向かい、到着したのが6月30日であった。 特攻隊編成を担当した参謀の倉沢清忠少佐が保管していた編成表の高橋少尉欄に「6/30 福岡着 奄美大島カラ」と明記されているのは、上記のような経緯を物語るものではないであろうか。 「振武寮」で洗脳を受け、再び知覧に帰った高橋少尉には飛べる飛行機も、積むべき燃料もなく、空しく待機の日々を送ったが、出撃の機会もなく終戦を迎えた。